

# 経営比較分析表

岡山県 津山市

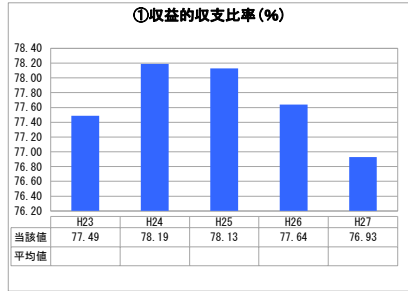
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)
-	該当数値なし	1.60	88.19
1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)			
3,387			

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
103,954	506.33	205.31
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,651	0.52	3,175.00

**グラフ凡例**

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

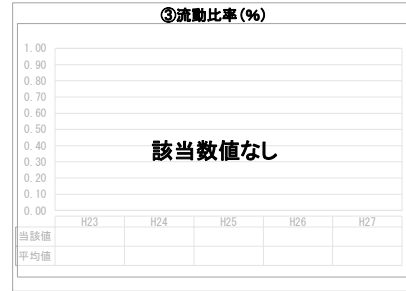
## 1. 経営の健全性・効率性



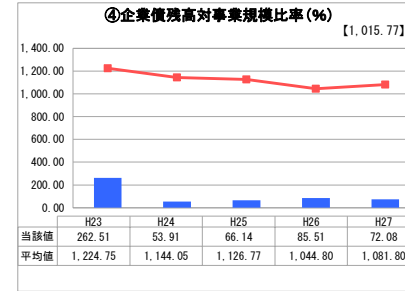
「単年度の収支」



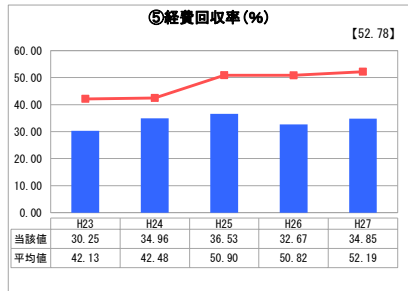
「累積欠損」



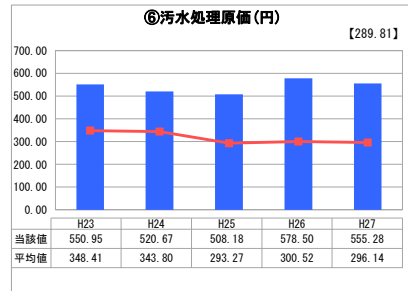
「支払能力」



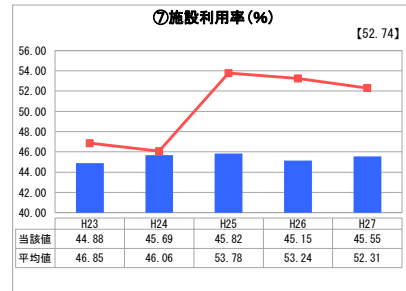
「債務残高」



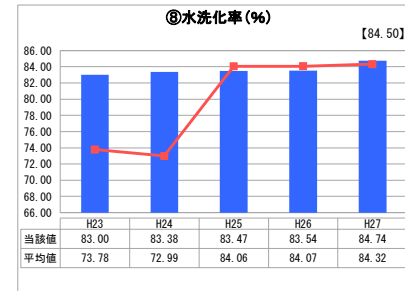
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

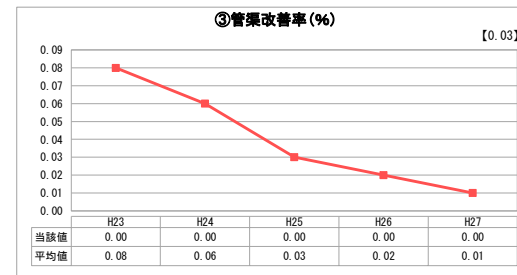
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化的状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

阿波1処理区と加茂5処理区の計6処理区があり、各処理区に処理場を有している。また、地形的に自然流下で汚水を処理場まで流すことが難しく、汚水を下流まで流すためのマンホールポンプが多数存在する。そのため、維持管理費が掛かり、営業収益のみで維持管理費を賄うことは困難である。農業集落排水施設利用料は公共下水道使用料と統一している。区域内人口が少ないため、その収益は、汚水処理費の1/3程度。水洗化率も数年横ばいのため、増収見込みはない。汚水処理費の2/3は、維持管理費（動力費、施設管理等委託料）であり、現時点では、当費用の縮減は厳しく、経費回収率が好転させる見込みは立っていない。

⑥の汚水処理原価は、類似団体平均値が示す通り公共下水道事業に比べ高くなるが、その中でも本市が突出しているのは、処理場数、マンホールポンプ設置数が多いがゆえに、維持管理費が高額となっているからである。

### 2. 老朽化の状況について

阿波処理区は平成10年から、また加茂処理区はそれぞれ平成11年から平成21年にかけて供用開始しているが、管渠については問題ない。処理場については、機能強化対策として平成31年度より順次、改築更新に着手予定である。

### 全体総括

管渠の建設はすでに完了し、企業債未償還金額は年々減少しており、収益、費用ともに、過去5年間、金額、内訳に大きな変動はなく、経営状態は良くはないが、安定している。平成31年度から処理場の更新改修を計画しているため、新たな費用が発生する。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。